

日医祭
スペース



9月6日 第一回 日医祭

新設の大学として、地域の方たちや、本学に入学を希望している皆様に学生活動の成果を発表するとともに、私たちのキャンパスを会場とした交流をはかりたいと考え、開学1年目であるにもかかわらず、大学祭を開催いたしました。

活動

- ・ 漫画・イラスト 研究会作品パネル展
- ・ ボランティア ユニセフグッズ販売
- ・ 来場高齢者への ボランティア活動
- ・ 茶道サークル 体育館での野点

模擬店

- ・ タピオカドリンク、たこ焼き屋
- ・ 宝永の水餃子屋
- ・ けずり苳屋
- ・ ヨーヨー売り
- ・ 抹茶ラテ屋

学生の反省会レポート

同時開催のアンデルセングルメ祭りは入場者500人超と大盛況でした。グルメ祭りに来たお客様が大学祭にも参加していただいたため、約1000人の来学者を迎えることが出来ました(数字は配ったパンフレットの数により異なります)。しかし夏休み期間であったため、学生の参加は30人程度。来年の第2回日医祭に大きな課題を残しました。

感想

- ・ 大学祭に来た人たちに楽しんでもらえた。
- ・ 先生たちと協力することで、先生たちと普段できない交流ができた。

課題

- ・ 学生の参加者が少なかった。
- ・ 計画的に準備を行えばよかった。
- ・ 模擬店などの品切れ時に学生だけで対応できなかった。
- ・ 前日準備のとき、各個人がどのように行動するかを事前に把握しておくべきだった。

集まったユニセフ募金は代表学生が北海道ユニセフ協会を尋ね、贈呈式に臨みました。ユニセフ協会からは大学に対して感謝状が贈られました。



命を学ぶ一週間

campus NEWS

珍客来訪

山田先生からのメッセージ

大学で「人間力」を高めるための「命を学ぶ一週間」（7月19日～27日）が始まり、パネル展と特別講演会が開催されました。つしま記念ホール前で行われた「いのちのパネル展」は北海道の交通事故死遺族会が提供しているもので、これまで道内の大学や教育現場、自治体等で繰り返し実施されてきたものです。交通事故死した家族の写真やその人の夢や希望がつけられているパネルを鑑賞するもので、学生にとっては間接的に死を学ぶ良い機会となりました。

また7月19日にはつしま記念ホールで、旭山動物園園長であり、ボルネオ等で希少動物保護の活動にも参加している坂東元氏をお招きし、「命」というタイトルの講演会が行われました。109人の出席者を前に、まさに坂東氏でなければ語れないお話を聞かせていただきました。氏は獣医師を目指していた大学時代に、酪農関連の動物を通して、「昨日食べた命が今日の自分を創る。」ことに気づいたそうです。卒業後、職場として動物園を選んだことで、日本の動物園のあり方、展示の仕方に疑問を抱くようになり、「ありのまま」の動物たちの行動を見ていたことが、それが観客に満足を与えることだと考え、「行動展示の」工夫を凝らすようになったのだとか。また動物園では年間を通して100あまりの死を経験しますが、生まれることと死ぬことは対であり、死があるからこそ生はかけがえのないものになるのだそうです。坂東園長の「動物園の動物たちを見ていると、与えられた環境の中で淡々と生きることの大切さ、命のパトンを渡していくことの意味を教えられた」という言葉は心に残るものでした。



私の研究室の網戸にミヤマクワガタがやってきました。北海道ではごく一般的なクワガタらしいですが、私の故郷（長野県）ではとつてもレア。せっかくなので南国フルーツでおもてなしです。「深山（ミヤマ）」の使者。私たちの様子をみに来たのでしょうかね。